

塗装する塗る前に・・・

【用意しておく便利な物】

1. 和（なごみ）

好みに合う色を選んでください。

2. 塗装用具

二スハケをお勧めします。

3. 研磨道具

仕上げ方によって用意するサンドペーパーが変わります。

【かんたん仕上げの場合】240番と400番の空研ぎサンドペーパー

【こだわり仕上げの場合】240番の空研ぎペーパーと600番の耐水ペーパー

4. ウェス

いらなくなった綿布で代用できます。タオル地は埃が出やすいので避けてください。

5. マスキングテープ

塗りたくない場所を保護するために使います。

6. 新聞紙やビニールシート

周辺の汚れ防止に使います。

7. ゴーグル、マスク、軍手やビニール手袋など

塗料の飛び散りによる汚れ防止に使います。

8. 汚れてもよい服装

衣類に塗料がつくと、きれいに落とせません。

【塗装を避けた方がいい環境】

1. 雨天や、湿度の高い曇天

（塗料が乾きにくくなったり、表面が白く濁ることがあります）

2. 極端に気温が高い日

（塗料の乾きが早すぎるため、失敗しやすくなります）

3. 極端に気温が低い日

（塗料が乾きにくくなります）

4. 強風

（塗装面にゴミがつきやすくなります）

【かんたん仕上げ】

※かんたん仕上げは、手軽に塗装を楽しめる塗り方です。つやのない自然な風合いになります。

A-1. 木地をよく研磨する

240番の空研ぎサンドペーパーを使って、木目に沿って研磨します。カンナをかけてある木材は表面がきれいに見えますが、塗料が染み込みにくい状態になっているので、しっかり研磨してください。「和」は木の質感をそのまま生かす塗料なので、塗装前の研磨は作品の仕上がりに大きく影響します。

研磨が終わったら、研磨カスをきれいに取り除きます。

A-2. 塗料をよく攪拌する

一部の成分が沈んでいることがあるため、塗装前にしっかり混ぜておきます。

A-3. ハケで塗装する（1回目）

全体に塗料を塗り広げます。あまり薄く塗ると拭き取る前に乾いてしまいます。

淡い色にしたい場合は、塗ったらすぐに工程A-4に移ります。

木材の吸い込みによる濃淡を生かしたい場合、濃い色にしたい場合は、塗料をやや多めに塗って、2～3分放置してから工程A4に移ります。

なお、途中で塗料が乾きそうな場合は、乾く前に塗り足してください。

A-4. ウエスで拭き取る

塗った塗料が乾く前に、布ですり込みながら拭き取ります。

A-5. 完全に乾かす

容器に記載されている乾燥時間は20℃の環境で乾かした場合の目安であり、拭き取り方が足りない場合や、湿度が高い場合などには表記以上に時間がかかることもあります。

A-6. 塗装面を軽く研磨する

400番の空研ぎサンドペーパーを使って、木目に沿って軽く研磨します。力を入れて研磨すると塗った塗料を剥がしてしまうため、軽い力で優しく研磨してください。

この時、塗料が乾いていれば粉状の研磨カスが出ますが、乾いていない面を研磨すると、

消しゴムのカス状の固まりの研磨カスが出ます。固まりの研磨カスが出た場合は、もう少し乾燥させてください。

研磨が終わったら、研磨カスをきれいに取り除きます。

A-7. ハケで木目に沿って塗装する（2回目）

基本的な注意点は工程A-3と同じです。

A-8. ウエスで拭き取る

塗った塗料が乾く前に、布ですり込みながら拭き取ります。

拭き取った跡は、木目に沿って仕上げ拭きをすると目立ちにくくなります。

A-9. 完全に乾かしてから、仕上がりを確認する

乾燥に関する注意点は工程A-5と同じです。

乾いた後の仕上がりが好みに合っていれば、そのまま完成となります。

色が薄いと感じる場合は、工程A-6へ戻ります。

【こわだり仕上げ】

※こわだり仕上げは、木の吸い込みによる濃淡を生かした、深みのある仕上がりです。
つやのない、しっとりした落ち着きのある風合いになります。
最後に乾拭きすることで、素材が持つつやを引き出すこともできます。

B-1. 木地をよく研磨する

240番の空研ぎサンドペーパーを使って、木目に沿って研磨します。カンナをかけてある木材は表面がきれいに見えますが、塗料が染み込みにくい状態になっているので、しっかり研磨してください。「和」は木の質感をそのまま生かす塗料なので、塗装前の研磨は作品の仕上がり大きく影響します。

研磨が終わったら、研磨カスをきれいに取り除きます。

B-2. 塗料をよく攪拌する

一部の成分が沈んでいることがあるため、塗装前にしっかり混ぜておきます。

B-3. ハケで塗装する（1回目）

全体に塗料を塗り広げ、木に塗料を馴染ませるため5～7分間放置します。

放置する間に塗料が乾かないように、多め（厚め）に塗ってください。

気温が高いときなど、途中で塗料が乾きそうな場合は、適度に塗り足してください。

B-4. 塗り足してから、研ぎ塗り

塗料が乾きかけていると粘つきが出て研磨しにくくなるため、B-3で塗った塗料の上からもう1度多めに塗り足し、表面が濡れた状態で研磨します。

塗料が乾く前の塗装面を、600番の耐水サンドペーパーで塗料をすり込むように研磨します。表面が濡れた状態で研磨すると、研磨紙が目詰まりしにくくなり、なめらかな手触りに仕上がります。

※研磨した面を塗り足すと、ハケに研磨かすが含まれてしまうのでご注意ください。

B-5. ウェスで拭き取る

余分な塗料や研磨かすを拭き取ります。

B-6. 完全に乾かす

容器に記載されている乾燥時間は20℃の環境で乾かした場合の目安であり、拭き取り方が足りない場合や、湿度が高い場合などには表記以上に時間がかかることもあります。

B-7. ハケで塗装する（2回目）

全体に塗料を塗り広げ、木に塗料を馴染ませるため2～3分間放置します。

放置する間に塗料が乾かないように、やや多めに塗ってください。

また、途中で塗料が乾きそうな場合は、適度に塗り足してください。

B-8. ウエスで拭き取る

塗った塗料が乾く前に、布ですり込みながら拭き取ります。

拭き取った跡は、木目に沿って仕上げ拭きをすると目立ちにくくなります。

B-9. 完全に乾かしてから、仕上がりを確認する

乾燥に関する注意点は工程B-6と同じです。

乾いた後の仕上がりが好みに合っていれば、工程B-10に移ります。

色が薄いと感じる場合は、工程B-7へ戻ります。

B-10. 表面を乾拭きする

汚れていない乾いた布で、力を入れて表面を磨きます。

磨くことで素材が持つ自然なつやを引き出すことができます。